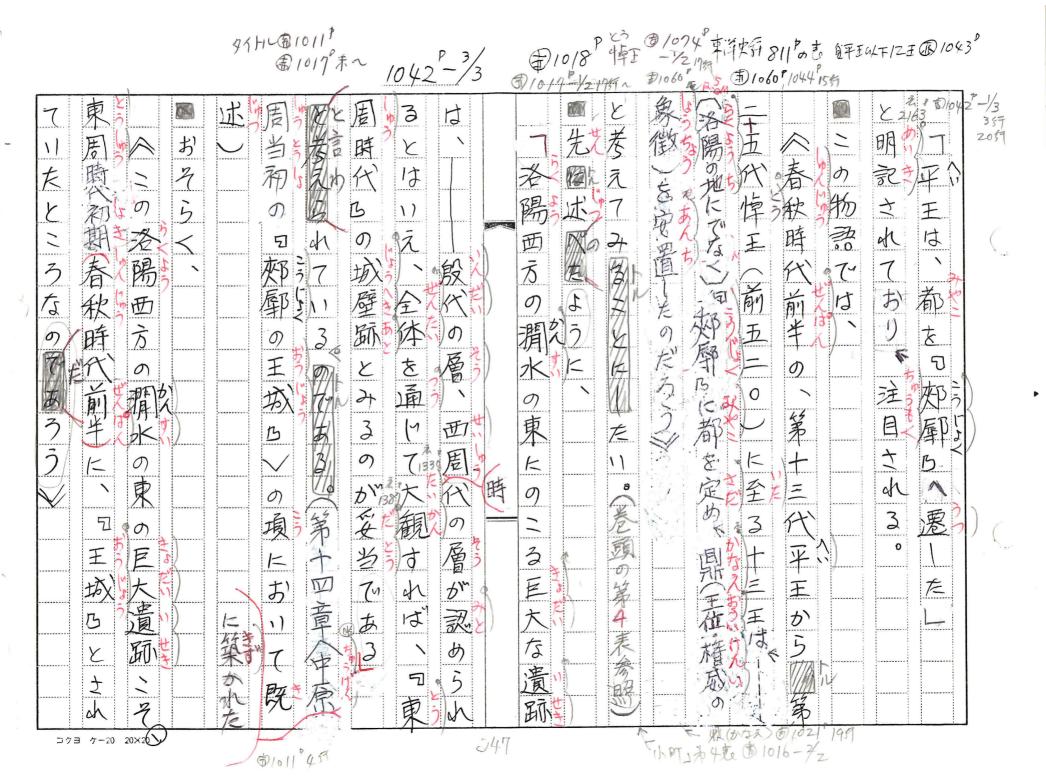
二茶の場合すある。 1014, 1015 \$1045 WTE 拉13~149 10721 再 ように位置づ 口春姓 遺 5 D` 三首 着 民産を 馬 き B 居 1 Du 全っ 5 殷 民 住させたが け 夹B 諸侯 周 辱的 書房 重 つ 公 理 を は 二十六 初 J 局 年十月条にこう記れて 巻頭 任 時 洛声う すれ 王 0 きありり 0) を 場。 と363 と363 春种左 た坊 は、 播 の第 K 389°F 3 鼎 お 2 居 d E 多人 。古 1) 3 昭公二六 成也 表多弱 う MA 7 記事を 0) 王命 だろ 0) 居 9 20×10 244 コクヨ ケー20 \$1053

而科林@-209° 信示护山乡宗局的東洋史符 リゴム 63 XP 曲 (6) 荆 きべ せるっため れます 居 VIIID 申 東 をあけて諸侯を召集したが来るもの を がなると 歴で殺されたぞして悪火 平王(居第 つあ Ī さ を 0) ったものの 居 際 75 华王 とも 0) 5 るこでや 三代の王 188月15日大き年本の 经簿 は 王 とき 87 应 至 在位前 居 13 に居 褒 を DW. 至 あ 5 とが 0 夫百 フ 第 王 侯 8 7 侯 ts 中侯が ことな かい 1 石 天は居 8 (1) 至 王は 王 ~ 居 0 of 年 0) 王 0) き 王 I 0 7-20120×20 月 4克日 245

本358户 東洋好問321、方代中国部部2018度了 対す 南街 2242 到1015 1060 1070 2018 1042--2018 E 城 3 考え 0 こそ 4 K 0 = あ 0 東洋史辞典 あ 3 HO] 0 ar 0) 5 聍 9 諸 春 エカ BE な は /A 王 は 侯 秋左 居 居 3 前 春 *b** 1) 平 かり ま 前二五六近 は前 四五三 上創元新 せられ 王 伝 荊 1 腿 四 1 五 1第四 か FOS INION 王 = 0 们 前 西省 ts 0) 0 す 居 馬 5 七 東洋夫舞 か 含 ま1930 れ 当 前 周 に 周滅之 步 AD 31 2 ナ 9 五六 地 h 前 KR188°

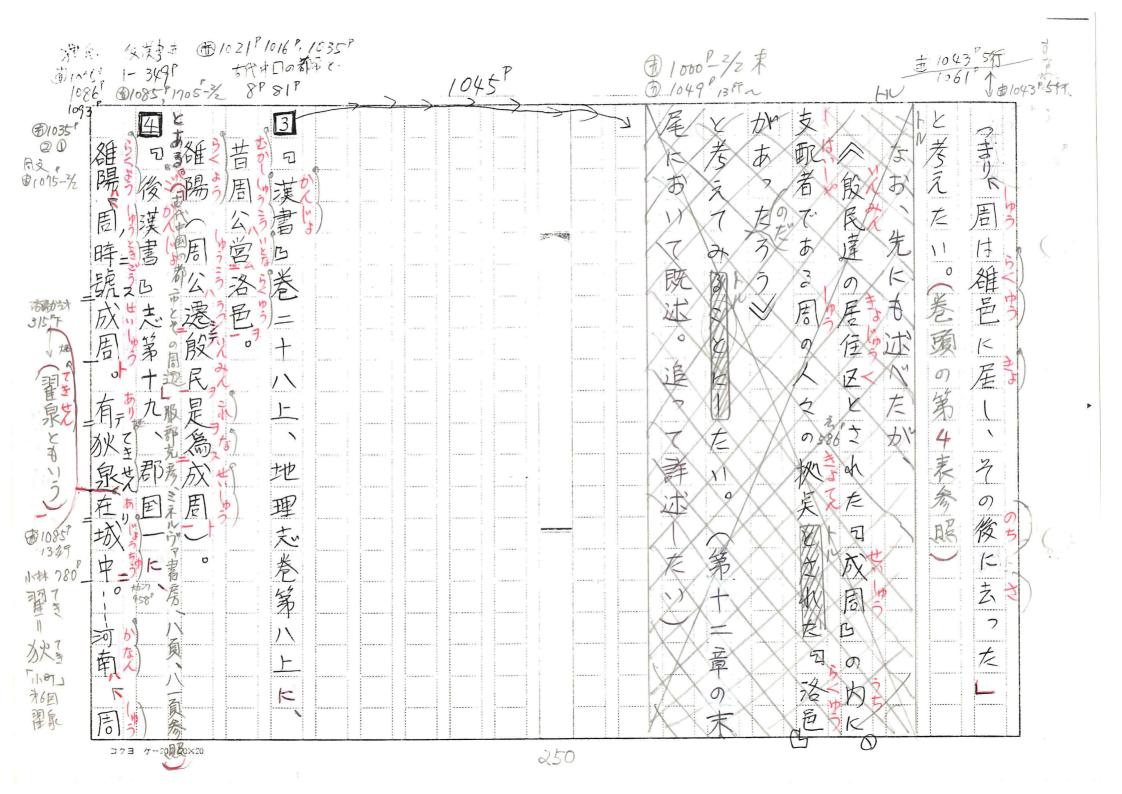
コクヨ ケー20 20×20

246



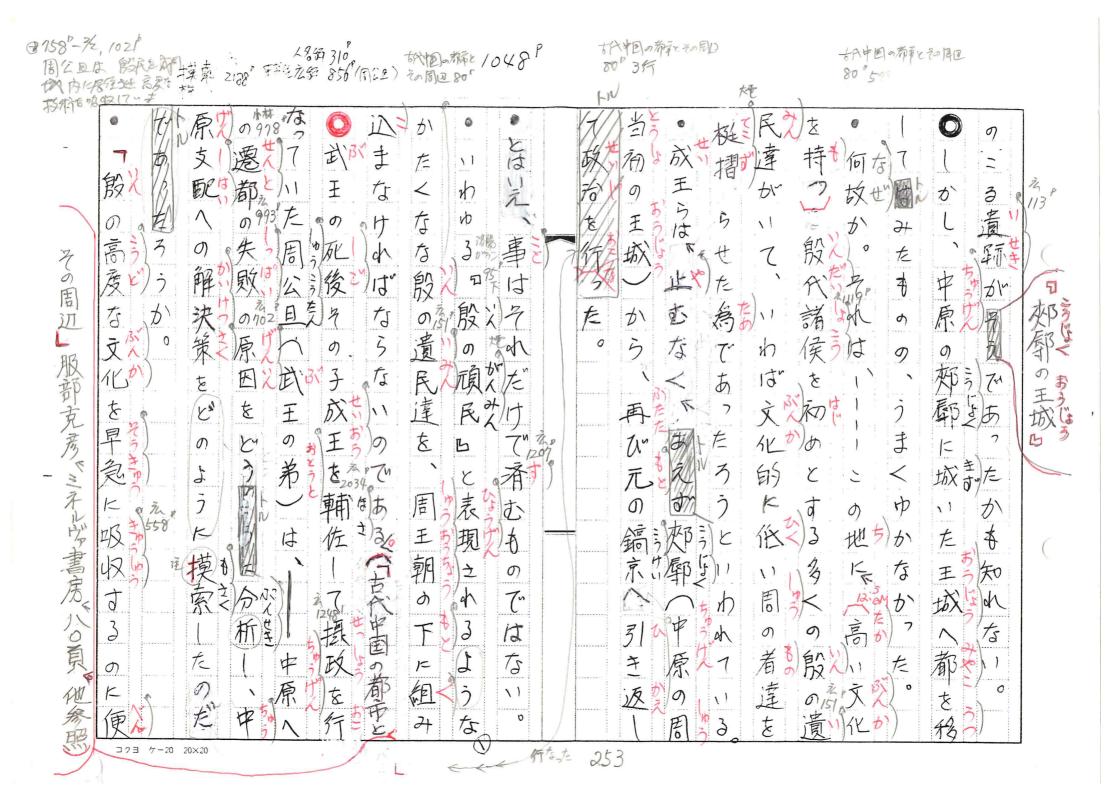
小林 43 7 及其動5 小村 331 漢、銀、入朝一113 四季は冷陽の西南 第 七七 た すな 7 あ B 5 0 三山 3 う は 逐 居居 1 7 X, 02 0 5 Tu 1) 古 **荊** 從来 前 勺 正 FB う E 五二〇 七七 第 一五 雅 邑 5 中 王 0 され 色 春秋左 居 括 Ŧ 四 100 は と前 楚 前三五六 地志 而 第 公新築在洛 B 0) 前 後去。 7 あ 0) 7 叼 七二の 春秋左氏 代 セセ Z 記 居 3 下又居 亿 ば、 遷 本 五 す 3 立 王 B 17] 5 は 249 遷 皆都 服 は K 13 王城 b 王 口 0) に 部克為 多少 E 伝 史 Ŧ 洛邑 す ち継色 50) 居 库 記 維色群我寇 1 13 こう記さ水 違 県北 名 0 B 王 至服 記事 岳 1462 U は かw 一日 7 0) かかかり 库 都 きた。 至敬干 現在 110 里 着 单, 3 を好 51 王 Z 72 P 東洋 3 3 日日 0) 庆20 大かり610% 0 夏 史论(生)48上 念服 コクヨ

\$ 1060, 1023 044 第10423 \$1042°3/3 馬 城 岩 と記されていたのだ こう 0) ようすると、司馬震 都 \$ 4 惠 在 た D' 平王位慶于故 5 177 を 2 の認識不足か 主 と記す かたし 7 敬 7 雄色 王 もそれ 从後 I 敬 从後 五 きで 混 甲五七至马 6 司馬鹿か参考 王 饮 · 馬第二代成王 6時 E 王城、 た博士までのり故王城 0 F は皆 成局がなる路色は下 0) 便 かた E 1= は 女士 犀 成問 7 协 TS 群我寇 E 此。城 7 0) 人間違 て成 蹙 b 0) 原見との1373~ か E 平 では 1 7 と思 te 洛品 路邑 只 周 知此為多第一表多照 王は野野に恵 1-加 居 鄰 h J 中 え カヤ まよ F 赧 遷 巻頭の た書物 か 0) E 1 3 7 ろう あ 王 王 E 7 O E 故故 問第 E 城 故 城 3 1 至 0 王 か E 12 THE P コクヨ ケー20 20×20 6



30026 次和0-周2 1040 浴 V 四日 書 東 書 え 南 陽 D 36 第三十 陽 有 龙 清 北 三市 陽仙藍 第 臣 郡 明 里 問 也 国 W 0 PE 给 西 日 四二大 百 有 陽 B 西 步 果 = E 階 医 公 東 日日 肝 北 0 库 PE 陽 百官 平 步 B 北 昌 0 W 宣 道 里 里 日 Fo 0 夏 Fo

更优、软件小、宝D291 1047 五日 7+ t K ta D 田 经梅 0) カツ E 2 地 E 居 7 133 王 9 盤 は 歷 う 右 0) Fo 唐 史書 % 新京 初 陽 あ DX 6 0) 0) 見 E 778 た 西 は第 辟 3 造意 至 と推察される 0 澗 47 the あらき 0) から たの 規模 ts 1= 7 在 0) Ž き E 0 K 史記山 は詳 東 12" すり 王 かい 到か 居 \$1044 124 \$1043 En 124 到一〇1052 19



非红城了5°空界 12/2/034 0 品 3 すなわちゃ 支配者である 王城 坐二 3 ts を築きて 熟だ か 0 は 3 FO よう 5 月步 を きず 世 どうす E 3 13 ということ 公旦 WE. 居 Dh. 成思 任 常り 19 洛陽 をもの 0) 2 なる な構想 洛邑 尺 が居住 すい 6 匮 3 ゅうこうたり 0) Š 5 中 公旦 the 15 さも 1 d K K およびつ 居 原、 3 都 は 7 王 内 9 朝朝 思, 7 に知ら 协 古 が一般 当 协 T さ 36 Z-D EK コ (7 目 ・ ケー・) 203×20

254

南1053 違いない

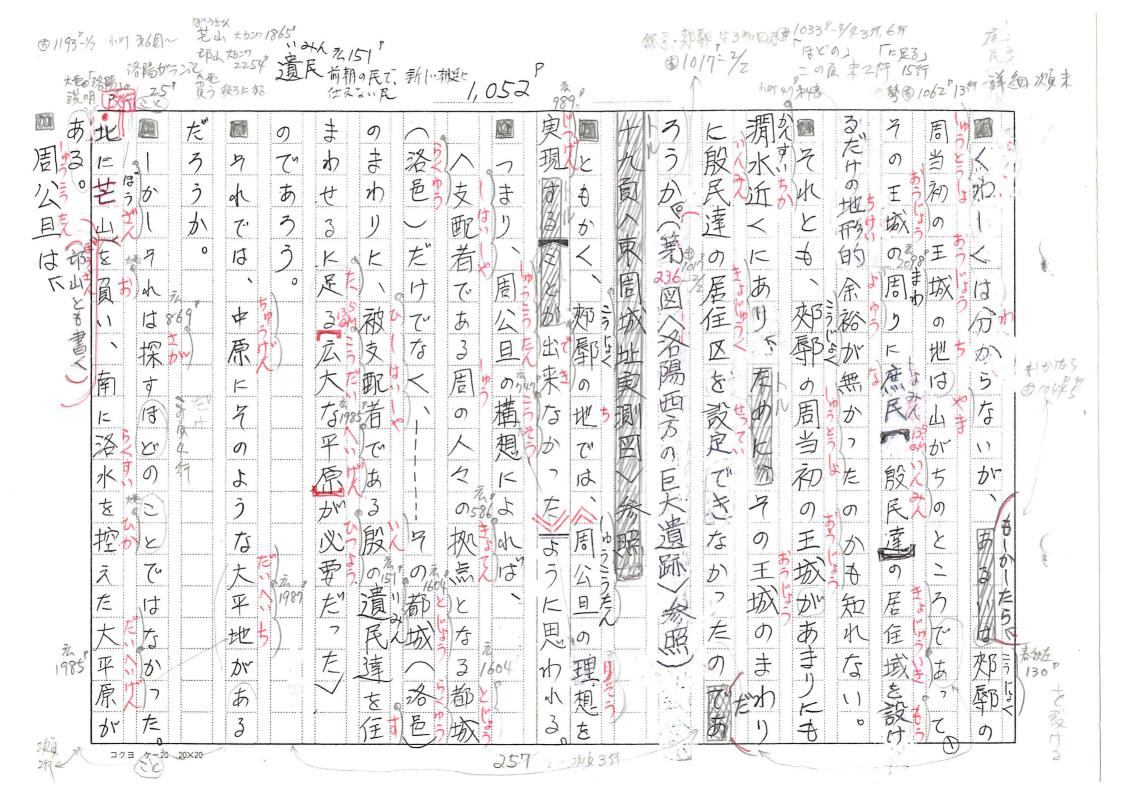
あり成す 新東末5行 中于11-2/3 P めぐり 小林 同 zo37 PH3.8.3/6)® 養些 ®1049 /行下 日のかり 2537 20988 1,050 2038 条 葡 と推察さ 17 シジ ま せれ DX To 3 ty れ替えて 1 お K か な 意味 中 城 11 ah Ĵ 春 用 漢書 雷 FP. 3 3 周 あるとかろ字を 1 古代 Ł 世界支典文学全 秋左 公旦 0 安厳をも 記述され さ るななかなっ 3 中 シラかい か営ん Dh 处規像 巨で 伝 伝 は 昭 存 1 纸摩書房. /323 史記 h 公 在 城 3 3 お 0) 名 さ 3 放 時 (史記漢武篇、里講 水 年条 7 周城 E 三三一夏至 汲鄭列伝 居 ٧ であ 守成 E は 俊 3 tòX お 0) ろう 公 互 三夏参服 = Tn 0) 11 浴 五 あ 0 0) 大助 898° コクヨケー20 20×20かんない 255

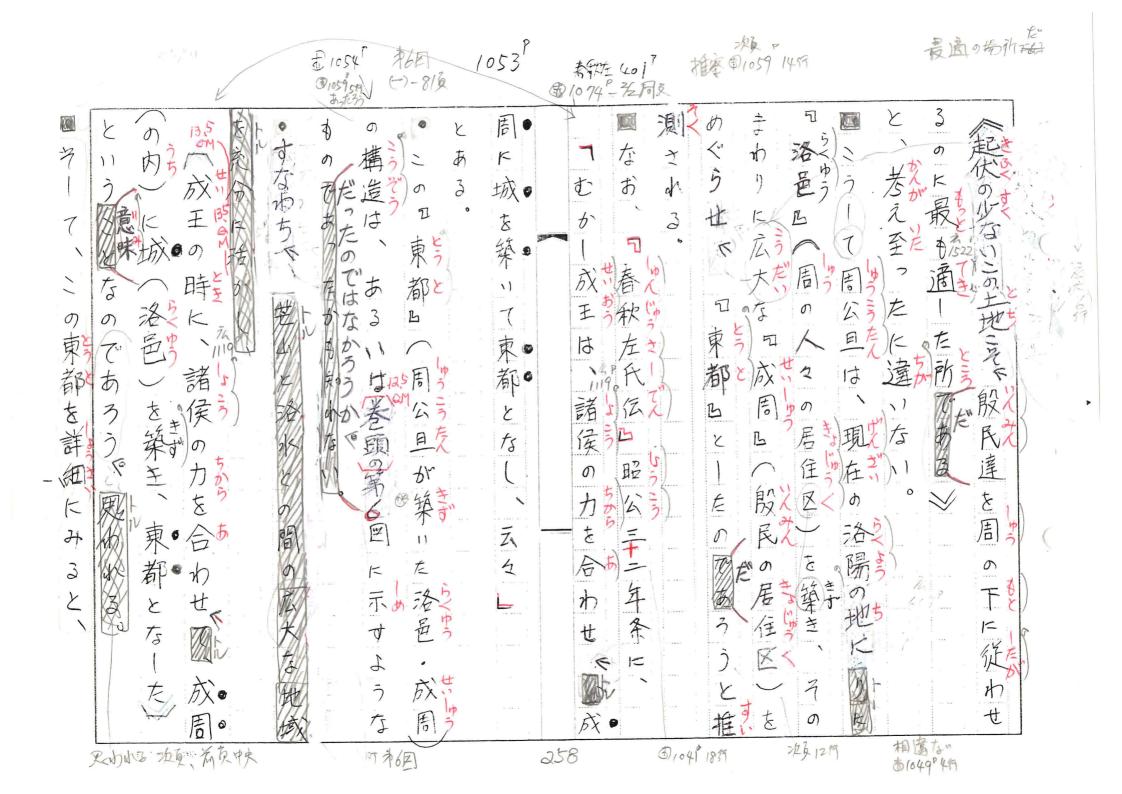
1か 然3に左948^を 3/16/ES \$ 10448 新作人200月 1,051 城 内 3 というでく を営 を 2 To か 7* 連 は ころ 1) 五 理 为 む 图 由 周第二代成王の時代の当初に ううと町 7 殷民達 7 たよう 2 DM かあ \$ とは禁 とりう 甚 周少 Z'n K が建 0) を築す 0) 51 h 鄂 Ty 0) たら 竪穴式任居 だろう ちからんていたに相違ない じられ ある た か 核 0) at व 府点 生 0) 3 b 5 派遣 た東都 か も を数 なけ ŋ ٥ 1-K 放問 差頭 外郭城内 7 殷 か Tu 194 知 ナ 民達 1) は of け てに 詳らかでな M かい 居 ても は 0) 7 ギっ ts 通 0) ならな 高床 () 国 居住街 浴邑 に参 2 19 邑 は か 5 式 () E 11 およ 熙 何 城 E は DY

コクヨ ケー20 20×20

256 1044 洋5万面1047 13年

再起了的1059°17年





欠卷1,054~1058 1,059P 禹1064 -1/46分 3 ば 7 あ Ho 1 たのだろ 居 クう 原则 1 9 0) 2 2 公重 被支 路邑 租) えると 東都 á 右 1272 h 18 之 В ah te 馬 あ 3 思 74 З E 3 王都 居 は The 8 586 d に可え ts 追 的 浴邑 あ 全四 周 民库 フ き継 K to 3 平 原 邸宅 は であろう かり お 0 0) 造 26 209

中原の王城 人。 をあか たよう 全る さ ためりて 東都とする K 想像 与好外 三王は皆 ま 大に うう。 東周時公 过。 籍京 さ to 2/04 个敬王 辟 3 の平王 5 を首都 西周時代 1 宫 老頭の第4表考於 成品 0 は都 俊期 まりり の第十表参照 か続 至 局好 路是 匹を王都と を持 平王から悼 た数 王 問当和の 7 1 260

255 克 平地 190 2 P 同文 1093 P 〒1206 4 1010 5 東 到1043°5行 第1060 11年 (F) 10617-1/2 \$1018° 1043 A) 018 P 春秋の時にえを耳はと \$1017°1/2 \$ 13 品 (i) 7年最少 **②** 鶴 西方 な遺跡 殷 速 2 7 0) 水 灰原 京 ある。(『文献 西方 0) 营 至被 ま 雒邑 ら た 物を 後漢書 述 京 王 to 居居 城 居 ろう の層 わけます数から 7 XX E 公日 戦 悲 を 7 I 都 考えら Z 根 俊 杏 居 戦 B 浴陽西方 E o **Ы**\м 志第 居 春秋 参照 雒 か 居 盾 ようた 王 と想像 類は 邑而 王城 は 王朝 k 0) か 当 王城 K を 5 ah かている た 最後 去 末期 3 後去 也 7 遷 土水 0) 洛邑 0 五 7 7 3 1) 3 K t 王 0) 0) 0) 1902 0 居 居 臣 は 极 巨 K 西 東 思時代 () 王 らを後 皮皮 U K 0) 1= (OR 10 /6) 王 邸、 0) Ŧ 0) 層 城 K 7 か \$1092 13 9 报复 居 5 田 B 0) て去 E 壁 3 あ E 王は b I 7 Θ 和德中列於大大王 D1043 99 コッヨーケー20 20×20 26

£1018 13 130 067 113 @1019" \$1018 13/2 30 から戦国時代 ③東周 4 遺構 居 補修部分 3 確 と考えら "陆 認 屈折 いの直後 E を された て最終 15 城摩 3. は 0) 不好死 末期に 0) 春 sh を伴 之 K 7m 3 大量 的 $\stackrel{\downarrow}{=}$ 秋左氏 5 あ E 至 甚 居 沙 ろ 補修等 王 歴 3 赐 時代 の遺物 四 が都 角 歷史 西 7 西 07 万 形 後半 王 DW/ oh を行なって 2 き包含 宣公 見 状 2 辟 の奏 0) 374 いたのだろうと推察 流 5 E 城 15/V た郊郭 となな 0 新256 三年条 は K X 1) するる 遺 场 1) 8 正方 国 と 0 7 秦 环 時代 層 の項において既は 0 约 居 主 3 す 形 王城 実 = 王 1 漢 計 鄣 居 洪 お I ts \equiv 173 7-20 20×2041/2 3087004 142/59 1011 P 262

T



新、农业的語山 (最外外郭城)

张那日本

文献的にそれ以上溯り得ない過去の情況について、とも ※ メルルイン て考察することは、非常に困難である。

●いうまでもなく、

たこって、

しっている。

いうまでもなく、

をいっている。

いっている。

いっている。

いっている。

いっている。

しっている。

いっている。

というできる。

というでき し、果たしてそうなのだろうか。

「東洋史辞典」創元新社〈洛陽〉〈北魏〉。等参照)

と解されている。(「世界大百科事典」平凡社〈洛陽〉 され、東西二十里、南北十五里という広大な都城になった〉 の大同から洛陽へ遷都した後、だどうから、 北魏の孝文帝が四九三年(もしくは四九四年)に山西省は、その、こうぶんでい

旧都洛陽の盛時をしのんで書きとめたものである。

時にといいまで、はは、ままで、ようするようなない。 北魏滅亡後、遺臣の楊衒之が、 四九四ともいう)して以来の国都の四九四ともいう) V.81 V.DV という記載があり、これが洛陽外郭城の初出記事である。

南北十五里で、 初めてあらわれる。

関して六世紀に記録された『洛陽伽藍記』巻五の巻末に、を取りまく外郭城については、よう北魏時代の洛陽の都にを取りまく外郭城については、よう。 (九六城。但し、西晋以降九七城と称される)

和生产2628 57 (55)

村人)13 相,北京の西2000年

28年から かのかと

ただ単にだだっ広い平原に生活させることなど、――決し《洛陽城や長安城等の大都市に身を寄せる多くの人々を、とはいえ、往古の中国社会では、

諸施設が、全くのむき出し状態だったことになる。2.4~4.5~3.1~1。1.2年近「明堂」「国子太学」「馬市」「洛陽市」などのとすれば、……その当時洛陽宮城近傍にあったという「霊側に最外外郭城が無かった〉

〈漢・魏・晋の時代の洛陽宮城『九六城』(九七城)の外さてここに、もしも仮りに、

思われる。

と、自問自答してみるとき、従来の解釈には首肯しがたく最外外郭城が無かったのであろうか)

《本当に、北魏より前の時代には、洛陽の宮城をとり囲むれどり、北魏より前の時代には、洛陽の宮城をとり囲むられる。

場合には、上げらればならない。は好ればならない。と解すべきであって、初出の頃に事が行なわれたと考えるているにすぎない〉

〈初出記事は、長い時の流れの中における最下限を明示しいがいます。だが、本来、なかしるない こうかい いいもだが、本来、ないしてない しきない しゅうりょう しゅうりょう しゅうしゅう まる、

すれば確たる根拠も無しに述べることとなりがちだからで

かれていたことは明白なのに、……それらを取り囲む城壁へわれていたことは明白なのに、……それらを取り囲む城壁へ洛陽の宮城の外側に諸設備や一般庶民の為の市場等がおとくろが、何と、

書房、六二頁参照)

という。(「古代中国の都市とその周辺」服部克彦、ミネルヴァる」

出た場合には治安の保障がもてなかったことを示していこのことは、如何なる大都といえども、その城壁の外にるところはそれが都市の務めだったからである。

する人々の治安面の保全につとめているのも、よって来た城』と呼ばれ、都市のぐるりに大城壁を築き、都市に生活中国において、一国の中心が台大都市か、古くカラ」都

中国において、一国の中心的な大都市が、古くから『都を意味していた。

の人々の治安面を考慮しない都城など存在価値のないことも、****へいうならば、人々あっての都城であり、これらいちならば、人々あっての都城であり、これらいちょく

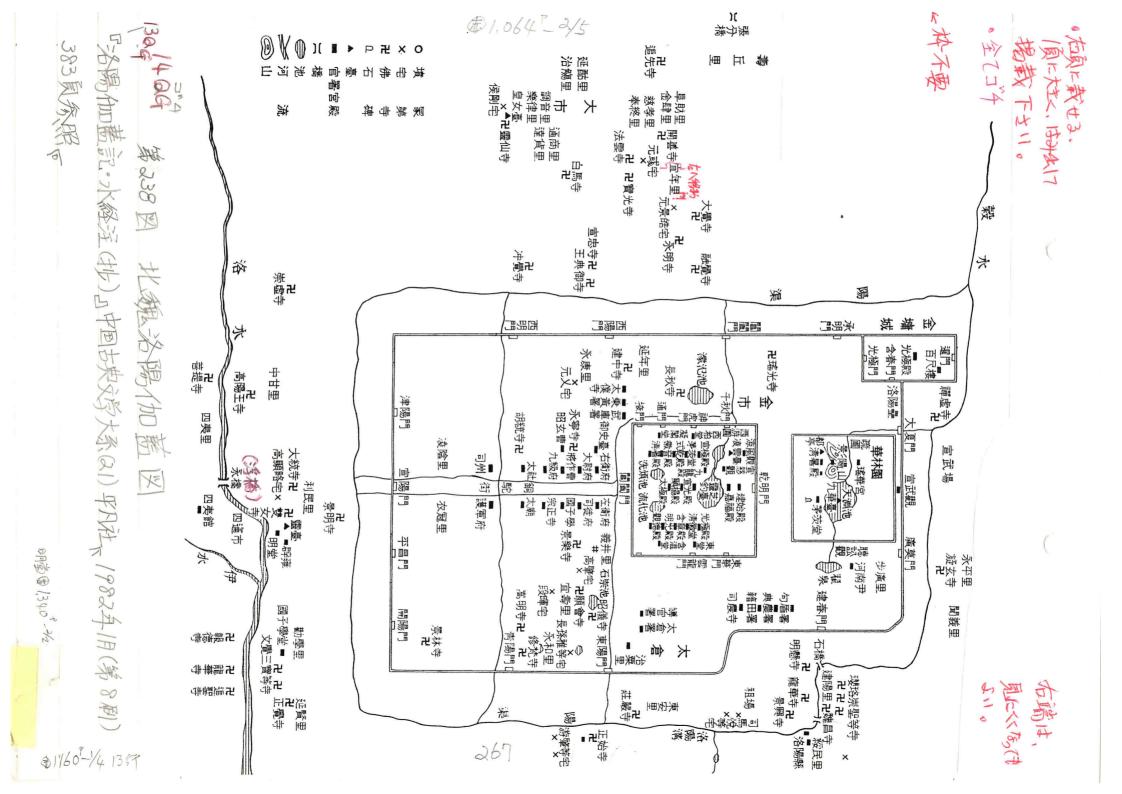
日常生活を守るのが、中国における都城といわれるものの「末下の中心的都市に集まってきたこれらの人々の平穏なこう言われている。

と考えられる。

務めであった。

て有り得なかった》

るためかまはは~しち 石 記卷第 東 き to 五 首 抵 5 お は た。 5 内 東 爸 た る 御道 E 宫城外 至 島 0) 銀製魚の東 司馬文王 の宮城 東 0 0 内 正光は北麓520へ コクヨ ケー20 20米30 12,383 7 266



@812,55=18P 、浴腸カラン19下 1064 15 あ 文 0 官 1) 五 7 D1 夏 K 日 カド to 願 存 7~ 城 0 軍一一一 50 0 加萨亚 # 東重 念 地 7 暉 13 侍 0) 重 寺で た 2 13 寺 寄 4 0) 西 J 0) 青陽 0 な E 5 6B 库 准 0) T 8 尼寺 北 \) 田田 库 書監 ろ 左 東 カト あ 云 建 70 進 U 々 B 0) 0) AUN は荀勖 99 +009 123 四生 K き 里 助助 3 信県 艺 は 道 あった。 たったが、 では42 4 t 昭 B 里 0) 里 俸手 3 漢 WY! 0) ニ六六) 7 野き # とあっ かい 中書 B 内 とき 出 3 だ 暉 1 7, 21136 P t to と言 侍 芝 ろ z 2166 董卓 k 五 寺 0 K 0 0) ま 当 銘 _ **7**7∃ 7-70 20×20 268

えかるとうりできょきょう、きっちょう 洛陽中海流台1.69 诸阳为江269 吉凶 \$ 1340 松をきること3里

图记机为10649-1/8 宮るが 1064

学行为27K7

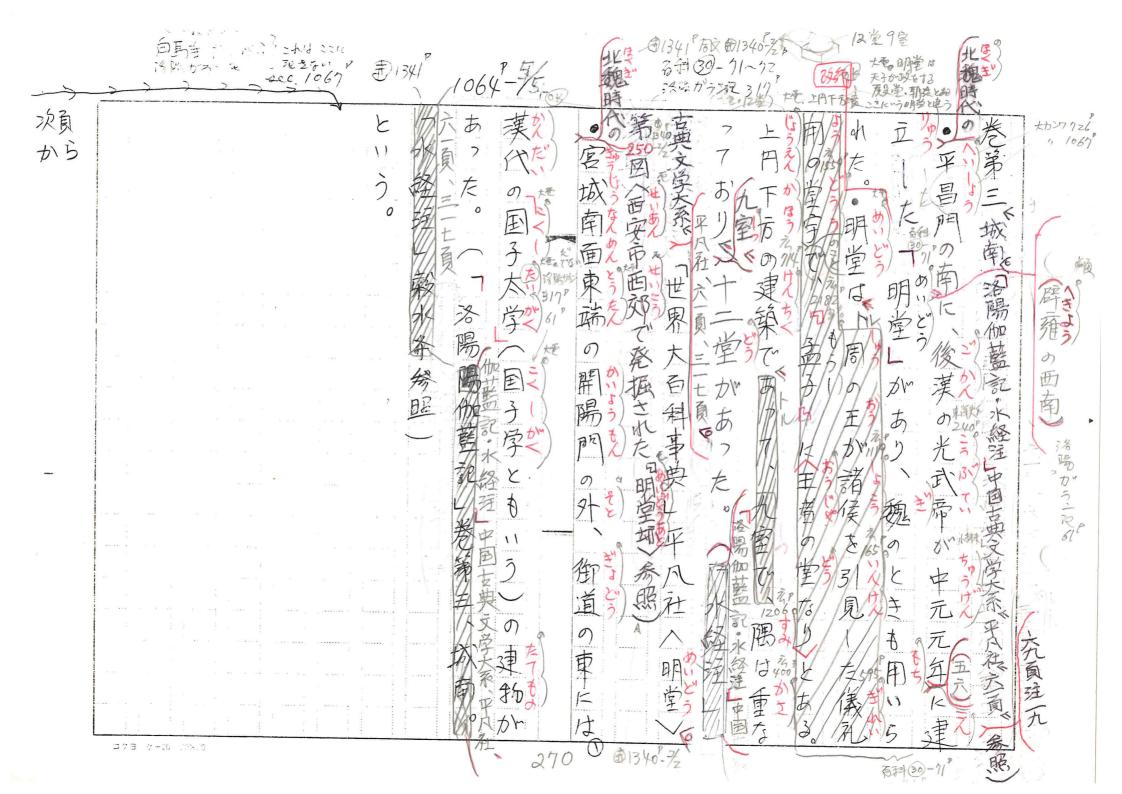
\$ 1340 吉 よう 南 注 陽 っさ to (人) まずり 最明 B th の高官たち ۲M 0) 魏 家 宫 格的的 2 10 井白 里 690719 聖台 占 洛陽記 想像 辟 城内 う 1) 々も 里 あ 5 7/511 夏 \tilde{j} 3 る El 1< 3 大 K4 混在 すり ユ 1 の路陽宮城南正町 な高からた 317間 经驻 \$ 同書 0) 13 0), 整 of 5 等 豪吐な野宅 とこ 1) 3 织 王宫 9 3 ЬM 0 K 2 と美が立 台 7X 161 武帝 中 2 あ は 洛陽伽藍記 X 11 里 包 高官達 K 記事 E はからな 画 北魏洛陽伽藍 図〉参照 象 K 古典文学大 次 の 真無照 b٣ 0) ナ 曹操 後葉のみ あ や雲気 か K DM of ようにひとか の宣陽的 た宮城 0)15 と9 け 華麗 邱定 が建 (n 浴 を観察 のみな K 15 O 武帝 系 陽 0) Ty 内 ナ を出 伽藍 K (2) U 5 を競う () 平 水 あろ 5m 股 は 多 1 思

コクヨ ケー20 20×20

+11

太太

四1,0642% 269



10657-1/2

£ 1168 无 前夏及 部克馬、 K 经注 リラ D14 で営なまれ 生活する居住域だ 城 ミネルプ事房、二三四夏。「 中国古典文学太系创平月社、四角注二五多明 K 片形 3 の城東地区に馬市 古代中国の 75° たこれらの 宫 0) ま 生活 た 記 に欠 市場馬 五三〇年寝放立 1 か É う 金市 上馬市 四一部石水 は相違ない。 があっ のだから 洛陽伽藍心 0) 9 ある 思江 K 50/2531 Tu 车 ナ な 宫

コクヨ ケー20 20×20

住

E

0)

Dr

あ

官

5

K

宫城内

王

とき考え合

2

3

とき

(1.K)

大电 大年最早地 大年最早地 第一年 1170 9314007 小敖沙宫中世界天下、地 太年、高兴力 1,065 P- 2/2 をからま 柱 经注八批 八夏、 E と記され また 推察 大市は D 金布が 太平 MA 0) 注二 K (55K) 41 城 さか 7 左五次 中国の地理書の宋 西南 ペペニ * 1.) 3 3 平然の 大城の西にあ らな 非常常 0 般野克彦、 頁 る と い う 图古典文学大系 に 务既 ۲ 5 いも 0) 興 3 B 代の東史 10 Th 宋代の本語ら十三人 F Ω 0 九八三年 1 ミネ 九二〇 は と声ってい 洛陽伽藍記 10 17 17 古代中 1000 (二) 平月社 لح 0) か あ 大いゴイ 著 書意念、 画 3 百九十一に 位置 0) 郝 四

コクヨ ケー20 20×20

大西 百科 太平鄉覧 272

19下广3 1170 1066 P/z @1026° = (1) K K 支配者岸 子女 あ 0) か 極 0) たが 3 3 7 亚 市 7 ۲ 7 1 て限定され あ 11 国 7 め後 0 鼎立時代 成 為 E 5 馬 服 土口 ミネ 7 0 絡陽 市 路邑 B = 2 たり 場 つ 古代 2 b 最 ゥッ 柯 か置かれたのかも知れない。(第る四条照 混 0) はべ曹魏 P 市 [w 山川 の若達 0) 書きた 後市 1) るように風かれる *⊅*٣ の都市とそ 設 协入 た の都洛陽の 市 けら 力内 T) 宮城 宫 三五夏 則 K ih 想 理 1 内等规 To. 000 コフヨ ケー(3) 20×20 \$10281 273 新加口-85页 由1026年至行

(2k)

あるなどはいたかなっ £ 1168° 1066-2/2 大的同門的8里 * 0 西 た在ち D1168 /2 が書き示し はな か gh よう 4 5 2 3 Ì 西寺 1= ts コクヨ ケー20 20×20 学也新了8年

H30 (2018) 12,1969~

1		1.07/1	冷場の街の冬風とか	ではハーた後にたい。
F17/19		\$ 3 3 √ -	変えうでは、10年までは、10年またが、10	が歴史書に記されなかっ、
173	7-20 20×20		が まで、 を り ら り ら り に し し し し し し し し し し し し し	なかっただけの変となのでから、『洛陽伽藍記』以前

275